



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「イスラエル建国」

イスラエルが国家を創設することはユダヤ人にとつて二千年来の夢であった(紀元七〇年、ローマ軍によって祖国を失ったから)。その達成にはヒットラー打倒だけでは充分でなく、英国、米国、ソ連という第二次世界大戦戦勝3か国の賛同が必要だった。その鍵はパレスチナを領有していた英国にあった。大戦直前の英国の政策は、将来ユダヤ人がパレスチナで人口多数を占めることに反対であった。そこで多くのユダヤ人がイスラエル移住を阻止され、悲劇的事件が続いたので、ついに英国に対してユダヤ人によるテロ活動が始まった。両者は血みどろの戦いをし、やがて英国は政策を転換する。一九四七年にパレスチナ問題を国連に委ねることになったのだ。その頃のルーズベルト大統領は反シオニスト(イスラエル建国のためのユダヤ人帰還に反対)だった。「もし彼が生きていたら、イスラエルが果たして誕生していたかどうか、大いに疑問だ」と当時のナイルズ大統領補佐官は言う。後任のトルーマンは大統領になるため、ユダヤ人の支持を必要としていたので、ユダヤ人国家創設支持を表明する。しかし、米国国務省、国防省は反対であった。イスラエル創設は西側陣営に最悪の結果をもたらすと予見していた。アラブの石油が絡んでいたからである。その頃ソ連はイスラエルが社会主義国家になるであろうという報告を得ており、中東地域における英国の影響力を低下できると考えていたようだった。一九四七年にパレスチナ問題がはじめて国連の議題として登場した時、グロムイコ外務次官はユダヤ人国家創設を支持した。その直後にスターリンは反ユダヤ主義に転ずるが、米国も政策を転換し、トルーマンも国防省の助言を聞かざるを得なくなる。もし、英国の撤兵が1年遅れていたら、米国はイスラエル建国にはるかに不熱心であり、ソ連の反対もまず間違いなかった。一九四七年から四八年にかけての短期間に、偶然に開かれた歴史のすきまからすべりこむ形でイスラエルは大事業を成し遂げたといえよう(ユダヤ人の歴史』P・ジョンソン)。

エゼキエル書に「わたしはあなたがたを諸国民の中から導き出し、万国から集めて、あなたがたの国に行かせる」(三六・24)とある。紀元前五九七年にイスラエルからバビロンに捕囚の身となった祭祀エゼキエルは、やがてペルシャ王クロスの勅令(紀元前五三八年)によるエルサレム帰還の予言をするが、これはまた二千六百年後、即ち一九四八年のイスラエル建国の予言でもあった。神のみ言葉の確かさと、鮮やかなそのみ業を歴史のはざまに見るではないか!

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在では日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

